

2015 年度第 1 回日本画学会技術研究会(通算 124 回)

インクジェット技術部会は『インクジェットヘッド、これまでの 5 年、これからの 5 年』-多様化に向かって新たな課題に挑むインクジェット-というテーマで、2015 年度第 1 回技術研究会(通算 124 回)を 2015 年 9 月 11 日に発明会館ホールで開催した。参加者は 115 名(会員:78, 非会員:36, 学生:1)であった。

インクジェット技術部会は 2010 年にもインクジェットヘッドを取り上げた技術研究会を開催している。それから 5 年が経ち、インクジェット技術が適用される市場も多様化し、インクジェットヘッドが対応すべき課題も変化してきている。今回の技術研究会では、こうした市場変化に伴う新たな課題にプリントヘッドはどう応えてきたのか、さらに今後 5 年、市場はどう変化しプリントヘッドはどう進化していくのかを中心テーマとした。

技術研究会での講演者と講演テーマを以下に示す。

「この 5 年の市場変化とヘッドの対応」

藤井 雅彦 (インクジェット技術部会)

「高速、高画質、スケーラブルを可能にする次世代インクジェットテクノロジー”PrecisionCore”」

中尾 元 (セイコーエプソン)

「サーマルインクジェットヘッドの現状と進化」

中島 一浩 (キヤノン)

「高速化と産業用途に向けたリコーのインクジェットヘッド技術」

森 尚子 (リコー)

「広がる産業用インクジェット市場とコニカミノルタのインクジェット技術」

石橋 大輔 (コニカミノルタ)

「アプリケーションに向けて進化する各社ヘッド技術(ピエゾ編)」

酒井 真理 (東京大学)

「特許、文献から見る新規ヘッド方式」

藤井 雅彦 (富士ゼロックス)

講演終了後、「実はここが知りたかったインクジェット」というテーマで座談会を開催した。特定のパネラーが質問に答えるパネルディスカッションではなく、出席者の質問に出席者が答えるという、これだけの大人数の集まりではユニークな試みである。インクジェットの基本的な悩みや疑問だけでなく、講演会のテーマでもある今後の 5 年に想定されるヘッドが直面する課題やその取り組みについても活発な議論が交わされ、有意義な座談会となった。

インクジェット技術部会主査:藤井雅彦 (富士ゼロックス)



写真 1 講演風景



写真 2 サンプルギャラリー見学